

岡田定藏 遠藤慶次郎 岡田トク

飯塚榮一郎 小名濱町

藁谷三壽 三坂村

吉田久藏 夏井村

坂田金物店 店主坂田藤助

支那人 右調查候選無之候也 監査役 田倉孝雄 野崎才助

新地新萬樓

若松幸藏

湯本町

満玉樓

白鳥美好

消防組頭

江尻博孝

泉村

磐城立憲新報

公器たる新聞紙は事實の

真相を報導せよ

徒に政黨熱に浮かされて正氣を失する勿れ

此れが某紙の常習手段か

曲者記者の悪宣傳

本社に連なる恐ろしい選舉違反云々は事實無根

定評ある某新聞紙は、この常習犯が暗に詭せば特種を有し乍ら我が身の程に於けるに相場が決つて居る。反云云と虚報し一般世人を惑した事實は本社にとりて甚だ迷惑の極と申さなければならぬ該問題については本人湯本町矢吹佐市氏より事實を聲明せる如く敢て辯明の必要もないが餘り輕率の報導も甚だしいもので某紙の報導する如きは全然跡陰のない無根である。一体此れが某紙の常習手段か曲者記者の奥の手か常に彼等惡黨一味は詐偽恐喝などは平氣でヤラカし寧ろ新聞を種に使用さうとした醜事を本職だと唯れ云ふとなく夫れから夫れへと傳はり今日では別して其の社品を語らずとも在平記者の曲者

某新聞社とハツキリ明瞭を知らず常に同業者を目的に刺す様に相場が決つて居る此の一味徒黨は其の道を手腕家揃ひで常磐炭田一帯を縄張と定め此の地帯に何か事ある毎に飛出しソロソロと奥の手を延し本業を全するの常でソロソロとした収入の悉くは花柳地帯に奉仕するの結局の藝當である尙彼等の罪状を算へ町治は常に危瀾に在り未だ訪問する等は全く正氣の沙

湯本町治のカウ亂者は何人なる哉

公平なる町民に訴ふ

既報の通り本郡湯本町は杯を引張出して其れに色々問題の常習地帯で近時又々と造作を加へ刑事問題など不穩の言辭を弄し當局を平穩ならす區制側の首謀汰とは其の判断に苦しむも者と賭られてゐる境、若松の如きは區制問題の解としての運動か否破壊を強ひて好むにあらぬか彼等の決が意の如くなるざるを不ひて好むにあらぬか彼等の一舉一動は奈邊に其の理由あるやおそらく私憤感情よ

Table with subscription rates: 毎月十五日一日, 一年, 半年, 三ヶ月, 一ヶ月, 郵便代金, 印刷代金, 発行人: 小泉宗雄

此佐代議士、若松利惣次(孝)君に敬意を表す君は天く君の態度は尋常一様では諸氏と席を同じして問題の解業民報社長田中先生の門下見られぬ其の輕率行動に驚か然るに今日に於ては君の正義人道を天下に布及し立場は如何變轉したのだ過以て民心を淨化せしむる激派一味と手を握り邪道の事が君の理想であり且つ生先立とは實に思ひ過ぎ事、命であらねばならぬある世に居直り強盜とは何、民報紙上に田中先生曰くに意味するが敢て君に問ふ煽動せず和せよ

悪宣傳について

湯本町矢吹佐市

磐城立憲新報及び箱崎君其の他の諸氏との間に何か不正事件でも織り込まれてあるが如く某新聞紙が虚報致し一般民衆をして惑はせし事實は寧ろ某新聞の爲に實に遺憾と想ふ次第であります。抑々磐城立憲新報と私の關係は同社創刊當時より特種の厚き關係を有し、そんな事情から私も常に同社の向上發展に微力ながら力添へ致したるものにして、敢て某紙の報導するが如き詐偽恐喝なごご云ふ見苦しき不祥事を演ずる様な薄弱な關係ではありません。

山崎登君

郡南の一角に威風堂々と納まり石城政友會の重鎮と推賞されつある植田水力電氣社長金成通氏あり、その參謀格として同氏より重用されつつある山崎登君は一般民衆より氣骨あり正義果斷の青年紳士と稱され又世事萬端に通じ社交に長じ殊に政治に興味を有し醜狀限りなき現代の政界を難し論議整然たる所は確かに非凡の才幹の所有者である君又泰然として小事に拘泥せずチヨイと襟度の大さ

雷同せず教へよ

「雷同せず教へよ」と申されてゐるではなひか君と僧侶は僧侶らしく神官は神官らしく君又信仰者は信仰者らしく君子的態度を保持しては如何たな敢て君の良心に問ふ君の動靜は果しな所を現す所は將に金成氏

Table with financial data: 第十營業報告 (昭和二年上半年), 貸借對照表, 利益金處分, 山崎登君, 植田水力電氣株式

# 一身を賭して皆 人物月旦

(其の五)

立看板ばかりで空理空論何等實の伴はざる内容  
空虛の人をして藁人形に衣装と云ふ  
吾人は斯様な人物を排し質實剛堅にして地方開  
發の爲めに「ホントウ」に手足の利く純血豊富に  
傑出した人材を要求せよ之れ即ち吾人の主張で  
ある

## 鈴木辰三郎君

政治即生命、生命即政治書を著し和漢の學に造詣  
を信條とし胸襟卓落、小節深く且つ地方産業の振興を  
に拘はらず、豁然として光計り當時時廢せる産業界の  
風雲月の如く、短軀瘦身、爲めに寄與せる功も又没  
白面黒髭稀に見る好男子で、  
且つ圓轉滑脱、人と談する  
に決して障壁を設けず其の  
巧妙なる應酬には何人も敬  
服す、反面には秋霜烈日の  
如き即決果斷の概と絶倫な  
る精力の所有者とあり、而  
も百難に逢ふも猛然として  
屈せず奮進捷まざるの氣魄  
を持し飽まで所信を遂行せ  
ざれば已まざるの強情心を  
有すも其純白なる精神に至  
りては眞に驚嘆措く能はざ  
るものあり然も名利に走ら  
ず己を忘れて社界の爲めに  
全力を傾注して惜まざる君  
の如きは實に近來稀に見る  
偉人と云はねばならぬ君は  
本郡夏井村の産家は代々農  
を業とす幼に秀才古今の

## 山崎吉平君

石城政友派には人材雲の急先鋒を爲してゐる者は君  
の如きは實に近來稀に見る  
偉人と云はねばならぬ君は  
本郡夏井村の産家は代々農  
を業とす幼に秀才古今の

## 古川傳一君

君は石城政友派の少壯有深淵と人格の高潔なる點は  
君の新人で其の経綸の遠大到底他の追従を許さざると  
其の識見の精透なる其共に政治に對しては慥に一  
見識を有する現代的理想政

## 大平陸四郎君

君は本郡屈指の酒造家でものなれば又格別なるも  
且つ郡南民政派の頭目、百同志の壓迫に依つて選に洩  
萬長者、現縣會議員で民政  
派の閣將として、地方開發  
には献身努力大に地方の爲  
に盡瘁せる功は没すべから  
ざるものがある、民政派の  
に立脚せる主張の持ち主と  
察するに餘りあり巷間傳ふ  
る然るに今度の縣議選に以  
ては茲數日後に逐鹿場  
進の途を拓く爲めに引退せ  
るは本郡選舉界は一大

## 兒玉萬平君

君は容姿清楚才調無雙従  
容閑雅なる風采は一度君に  
接したる人の愛慕敬措く治  
能はざる所賦性温良にして  
家を治むる勤儉、己れを律  
する端莊、人と爲り清操に  
至りしは君の全人格と徳望  
の念厚く小節に拘はらず、  
深學博識なる地方稀に見る  
模範的紳士として賞揚する  
も敢て過賞であるまい君は  
郡南川部村の素封家に生れ  
代々農を業とす山紫水明の  
郷と共に君の頭腦は益々明  
敏に自然に備はる徳望は四  
隣を壓する又謂ひなせり推  
や先年衆望を荷ふて郡會  
議員にあげられ郡政の刷新  
に其の巨腕を揮へしは世間  
周知の通りである尙後年推

面には人情に脆く利慾に淡つて事に當る、一度奮然起  
く眞に家柄にフサハシき好  
々爺である君は文化の進運  
に鑑み青年の智徳涵養に努  
め且つ居村飯野村長の職に  
就くや村治の刷新、教育の  
改善、學校の新築等君の在  
職中の功績は枚擧に遑あら  
ず幾多の功績を遺して後進  
の途を拓く爲め昨年満期を  
潮時に退職し悠々として英  
氣を養ふてゐたが決して公  
共事業や其他地方開發等に  
志すことは在職當時と何等  
變りなきは在職當時と何等  
ざる所である而して君は堅  
忍不拔百折不撓の精神を以

## 御買上の光榮

平町白銀町諸根樟一氏の名  
著「磐城文化史」上巻は、  
目下翁島に御避暑中の山  
階宮萩磨王殿下に  
は去月廿二日若松市に御光  
來の砌、市物産陳列館に至  
らせ、同書に就きて御下問  
あり、畏くも翌廿三日を以

比較的的惠の薄き所であ  
るが此れがヨリ以上君の長  
所である由來君は名利を否  
り理想であり生命である  
あり理想であり生命である  
あり理想であり生命である

比較的的惠の薄き所であ  
るが此れがヨリ以上君の長  
所である由來君は名利を否  
り理想であり生命である  
あり理想であり生命である  
あり理想であり生命である

比較的的惠の薄き所であ  
るが此れがヨリ以上君の長  
所である由來君は名利を否  
り理想であり生命である  
あり理想であり生命である  
あり理想であり生命である

比較的的惠の薄き所であ  
るが此れがヨリ以上君の長  
所である由來君は名利を否  
り理想であり生命である  
あり理想であり生命である  
あり理想であり生命である

比較的的惠の薄き所であ  
るが此れがヨリ以上君の長  
所である由來君は名利を否  
り理想であり生命である  
あり理想であり生命である  
あり理想であり生命である

比較的的惠の薄き所であ  
るが此れがヨリ以上君の長  
所である由來君は名利を否  
り理想であり生命である  
あり理想であり生命である  
あり理想であり生命である

比較的的惠の薄き所であ  
るが此れがヨリ以上君の長  
所である由來君は名利を否  
り理想であり生命である  
あり理想であり生命である  
あり理想であり生命である

比較的的惠の薄き所であ  
るが此れがヨリ以上君の長  
所である由來君は名利を否  
り理想であり生命である  
あり理想であり生命である  
あり理想であり生命である

平町に於ける信用絶大の  
商店と振つた  
△警成工業商會と  
△なやかや洋服店と  
△大一屋商店の大努力  
電話長一六番  
電話六四〇番

偉人と云はねばならぬ君は如何れも出色揃であるが、君は人と爲り靈警爲の新人で其の経倫の遠大  
本郡夏井村の産家は代々農終始一貫良く清節を守り常而して舉止嚴にして情極のなる其の識見の精透なる其  
を業とす幼にし秀才古今の正義と政界革新を以つて腕腕、言笑に簡なり又反の氣膽の豪邁なると學識の  
見識を有する現代的理想政周知の通りである尙後年推力量を縦横に遺憾なく發揮張撮影もするとの事である

内外機械油 發動機用油  
色油類各種 度量衡器  
コイルタール 石油 乳劑

日本石油株式 社特約店  
潤 關 内 正 一

磐城 平町二丁目  
電話 長 一六番  
電話 六四〇番

平町に於ける信用絶大の

# 商店と振つた

## 營業方針

格式ある店—買ひよい店 [五]

現今平町に於ける第一流の店にして  
郡内及び社會より殊更信用をうけて  
尙將來其の發展すべき大小十餘店の  
大略な評を、茲にしてみたいものであ  
る、誇張あれば多謝し申す(一記者)

### 關内正一氏の社會的活動

本郡平町二丁目關内正一氏は、宛  
の經營にかゝる關内油店は然大釜屋の風格と彷彿の所  
内外の油類を賣捌くことにある。氏亦豪氣なる風採  
於ては常盤線上、同店に匹敵するものはない。潤達にし  
敵するものなく、乃ち磐城が湛へてをるの潤達にし  
三店(釜屋、鹽屋、同店)て快男子たる氏の人間の價  
の一にして、關内氏は磐城を充分有つてゐる表現で  
有段者會、平町消防等、其あらう。氏の内實亦大の美  
他公私の名譽職等に關係し人にして秀媛、諸藝に通じ  
てゐる青年紳士にして、常近にお目出度さがあるとの  
に社會的に活躍する外に近隣を聞き、一家一門店  
代の思想及び文藝に傾倒し員に至るまで、氏の俠情と  
傍ら郷土の文化を高唱し或純愛の下に訓育され幸福な  
は貧者に慈善し、店員を優生活と社會的地位を保ち得  
遇、心神の向上を圖つて克るのは敢て遇然ではない。

### 三井履物店の評判

平町二丁目存在する三井履物店は、  
ハキモノ店は三井常松氏の事實が證明し、殊に三井氏  
經營するもので、郡下第一の商風に一種の士氣あり、  
の多量廉賣主義にて、良品一般商人の通弊とする一時  
山の如く陳列してをるの世辭は大嫌いの人、飽くま  
蓋し、同店を以て第一位とて正當な販賣を爲す所に、

他の真似し得ぬ性格の特有してゐるのを見て證明され  
があり、従つて地方ハキモノ次第だ。  
ノ界の老舗である信用さ

### 磐城工業商會と

#### 中村氏の奮闘

中村四丁目機械及電氣器忙殺と優勢力が概見さ  
具、モートル、ラヂオ其他れる。殊に氏は温厚冷靜の  
一般の工業用鐵器を販賣し美紳士にて、斯界のオーソ  
てゐる中村佐治助氏創設のライターとして磐城機械商  
磐城工業商會は、電氣及機械の花形選手たる評がある。  
械の店格としては常盤線第一又店內於ける時は店員を克  
一の地位である。  
同會の販路は奥羽六縣に亘業上の能率を圖り、瞬間の  
つて需用せられ、氏又其のゆるみなく需用先の爲に努  
交渉の爲に東走西奔、常に力してをることは、他店の  
寝休する所は特急列車内で、真似し得ない特色を有つて  
あるに見て、如何に同店のをる

### 西村屋藥店の聲現

平町二丁目西村屋藥店は其技術に於ても當地寫眞館  
の大藥店にて、藥劑師などの匹敵する所でない。  
鈴木堅助氏の先祖何れも學同時に同店に現在通勤して  
者文人等を出したる家柄に在る支配人格の佐々木顯氏  
て、郷土史を讀む者には誰は、地方歌人として夙に知  
じも首肯される。又鈴木氏は東京及縣内の文藝誌上  
方寫眞界の名人として既に與してゐる。斯くした同店  
定評あり、中央の各撮影出は一方業務に於ても、藥品  
品會に於ては、いつも優賞の多量新鮮にして確實なる  
を贏ち得るに見ても證され、ことも縣下屈指の店たるは  
撮影の表現に神腕を有し、  
一般人の評である。

### 坂田金物店と主人

平町二丁目存在する坂田金物十年來の人々ばかりである  
店は、釜屋に次ぐ大金物商主人の坂田藤助氏は、大の  
にて、殊に家庭金物の専門古書畫通にして考古的趣味  
店としては縣内屈指の老舗の紳商たるは、地方に知ら  
である。良品を安く賣り、  
顧客に親切のため、同店に秘藏する骨董類は數萬もあ  
出入する顧客は、孰れも數  
らんなど、評されてゐる。

人に接して横柄ならず、町大に有つてゐる御仁。益々  
内の元老格で何事にも相談同店の優勢を祈つて記者は  
を受けられ、周圍の信用絶次に筆籍を徒す。

### ななかや洋服店は常盤線一

平町二丁目ななかや洋服店は又驚く勿れ、年額數十萬  
既成洋服としては東京、青圓に達するとは、誰か我が平  
森間で第一番である。同店町に斯くの如き大生産工場  
は東京に大工場を設け、職を自ら有し且つ卸小賣共に  
工數百人を便役し、自家製爲してゐる店あるのを知る  
產品のため殆ど原價的に大ものがあらうか。實に同店  
量販する所から、其の賣の内容の偉大なる大量破  
上高は、自店にたけにても格主義の奮闘ぶりは、敢て  
年數萬圓に上つてゐる。怪しむに足らず、即ち資本  
其他地方の各小洋服店及仕の良用に依る今日の基礎を  
立物商等へ卸賣する格は是作つたものと謂ふべきか。

### 平銃砲店と渡邊氏

平一丁目町會議員渡邊貴一平町議中稀に見る高尚人格  
氏の經營する、常盤線一の者にて至誠公平の士、辯論  
銃砲及火藥店は、年々當地にも達し町政の是非を提案  
方の狩獵者増加に伴へて、し、大いに意氣を發する所  
本郡に同業なき同店は、最に氏の片影を見られる。冀  
近偉大に店の廣大を期し、くは其の銃砲の如き直進力  
今日では一挺千圓にも及ぶを以て、將に大平市制を布  
銃砲を陳列し、其他諸附屬かんとする前の、現實の紛  
品に於ても内外の優良品の々たる岐路に對して氏の明  
みを置き、狩獵者の垂涎を  
流さしめてをる。  
同店の主人たる渡邊氏は又  
を切望してやまない。

### 大黒屋化粧支店の優勢

平町三丁目本店を有つ同有名責任附のみを以て陳列  
店は昨年二丁目平銀行前平  
淺草の稱ある賑かな十路街  
頭の一角に巍然として建て  
た支店のビルディングは、一  
節を抱く人にて、幾多の店  
員を指揮し、顧客に失態の  
あり、以來當地の貴婦人な  
きことを注意しつゝ、高  
淑女、青年紳士等が日用必  
尚優美な斯業に倍々發展せ  
須の高級化粧品は、此の店  
に悉くありて、其の品質亦  
同店の主義に叶へ、内外の  
い。

平町二丁目大一屋商店は本店と取引してゐるに見ても  
郡第一の荒物雜貨の卸及小如何に同店は信用あるか  
賣商店として名ある現町議分かる。

### 大一屋商店の大努力

平町二丁目大一屋商店は本店と取引してゐるに見ても  
郡第一の荒物雜貨の卸及小如何に同店は信用あるか  
賣商店として名ある現町議分かる。  
常盤線平町白銀町に本店並圓に上ると云ふ。斯る大勢  
に本工場を有する釜清商店力ある同店は、主人清治氏  
は清治氏の經營にかゝるもの人格的活動ばかりに依ら  
ので、支店の數青森上野間すして、同店の支配人たる  
にて五箇所に及んでゐるに河田梅吉氏に大半負ふてゐ  
るもので、同店の尤も専  
河田氏は技術、人物の良  
るばかりでなく、常に部下  
の職工及び店員、技術員等  
竹村博士の推薦せるT.S.式の職工及び店員、技術員等  
小型船用發動機の如きは常  
から常盤線沿海岸にて一般に採用  
されてゐるのを見て、同氏の  
一面が窺はれることであら  
う。同氏は近く平町南部の  
郊外に宏壯な二階造りの邸  
宅を目下建築中、之が落  
成の上は地方工業界の名士  
及び懇意の士を招待し、盛  
大な大工作品を取り扱つて  
る、同店の月産額五萬  
定であるとの噂。

### 釜清商店の勢力

平町紺屋町玉川屋酒店は平  
町外部にも支店を有し石  
城民政黨の爲めに非常なる  
好意を有つてをる場秀次郎  
氏は同店の主人にて、店內  
には内外の酒類雜貨一切を  
蔵し、何れも品質優良新鮮  
のものはかりで、價格に於  
ても到底他店の匹敵出来な  
い勉強振をしてをるところ  
らやんでゐる。(つづく)

### 玉川屋本店の評判

平町紺屋町玉川屋酒店は平  
町外部にも支店を有し石  
城民政黨の爲めに非常なる  
好意を有つてをる場秀次郎  
氏は同店の主人にて、店内  
には内外の酒類雜貨一切を  
蔵し、何れも品質優良新鮮  
のものはかりで、價格に於  
ても到底他店の匹敵出来な  
い勉強振をしてをるところ  
らやんでゐる。(つづく)

双葉郡久の濱町

荒川悌一 町會議員	鈴木榮次郎 町會議員	坂本逸太郎 町會議員	鈴木富太郎 町會議員	北郷清太 區長	鯨岡久兵衛 魚業組合長	高木元唯 久ノ濱信用組合長	岡田定藏 前區長	新妻兄次郎 酒造業	高木好之助 木村善五郎	尾城寫眞館 小名濱町	會田清太 村會議員	大竹萬助 區長	
佐々木系平	遠藤興平	新妻久五郎	吉田屋 古川三次郎	新妻雄一	月の屋 藝妓屋	角海老 御料理	岡田トク 産婆	新妻久五郎	吉田蘇平 港屋旅館	松崎寅次郎 三坂村	宗像長良 夏井村	草野清榮 夏井村	
大山晃雄 小名濱町	若竹 小名濱町	木田熊太郎 小名濱町	内山時計店 小名濱町	小濱長太郎 小名濱町	津田春吉 小名濱町	飯塚榮一郎 小名濱町	藁谷三壽 三坂村	永山久助 三坂村	吉田正雄 三坂村	小林信之 澤渡村	佐藤倉造 代表者	根本精 夏井村	若松條助 湯本町
野木末吉 三坂村	蛭田三郎 三坂村	永山孫三郎 夏井村	今泉惠 夏井村	今泉安吉 夏井村	根本圓 夏井村	吉田久藏 夏井村	藁谷三壽 夏井村	根本圓 夏井村	西村藥店 中村佐治助	磐城工業商會 中村佐治助	三井履物店 店主 三井常松	坂田金物店 店主 坂田藤助	草野多嘉壽 夏井村

若松幸藏

滿玉樓

江尻博孝

受成... 行求

共統郵價定日行發

第十期營業報告 (昭和二年七上半期) 貸借對照表

第十期營業報告

貸借對照表

預替貯金 七、九四、五五... 振替貯金 五、七三、三五... 現貯金 六、三三、四〇... 委託鮮魚代未收入金 三、〇〇、三〇... 假務什器 二、七四、四五... 專務什器 四、八七、五〇... 事務什器 一、〇七、三〇... 備品 二、六四、六〇... 諸機 六、七、三〇... 諸家及建設物 五、〇二、九九... 工場敷地 三、八八、二〇... 工場敷物 一、七九、八七... 賣業費 五、九四、一五... 立替金 二、七四、七〇... 賣替金 二、八七、七〇... 立替金 二、三〇、三〇... 在庫品 一、六八、〇〇... 合計 一、〇三、四八、四〇... 負債之部 資本 一、〇〇、〇〇、〇〇... 假受金 九、九、七〇... 委託鮮魚代未拂金 四、一七、〇七... 未拂金 一、〇五、二五... 純金 四、九五、三五... 純金 五、八七、九〇... 計 一、〇三、四八、四〇... 利益金處分案 金壹萬五千八百四拾七圓九... 拾五錢 當期純益金 金壹萬五千四百四拾七圓九... 拾五錢 法定積立金 金壹萬五千四百四拾七圓九... 拾五錢 後期繰越金 右之通りニ候也 昭和二年五月卅一日 磐城工業株式會社 取締役社長 小野晋平 取締役 白井宗吉 監査役 山崎三郎 渡邊繁太郎 諸橋守次郎 尾尾伊太郎 田倉孝雄 鈴木辰三郎 野崎才助